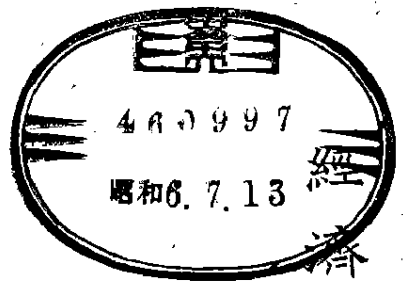


Title	戦後財政の歸趣
Author(s)	小川, 郷太郎
Citation	經濟論叢 (1919), 8(1): 1-12
Issue Date	1919-01-01
URL	<a href="http://dx.doi.org/10.14989/127482">http://dx.doi.org/10.14989/127482</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher



第八卷 第一號 (通卷第四十三號) 大正八年一月發行

戰後財政の歸趣

論說

小川 郷 太 郎

休戰條約締結せられて將に媾和會議が開かれんとして居るが、其媾和會議は政治上軍事上經濟上諸問題を解決するであらう。政治上軍事上經濟上の諸問題の解決次第に依ては戦後の財政は又面目を新にするに相違ない、故に戦後の財政が如何になり行く乎を知らんとせば、媾和會議の如何に局を結ぶかを察せねはならぬ、然るにそは事將來に屬して確實に豫見すること出來ない、唯所謂媾和の基礎條件なるものを見、各國政治家の主張する所を考ふれば多少其趣く所を察することが出来る、斯之財政状態は現在過去の事實に鑑むるときは又將來の歸趣を察することが出来る歐洲諸強國の財政の前途を察知することは又我國の財政策を立つる上に必要である、蓋し我國の財政策も世界の大勢に逆行すること出來ぬからである。是れ此論ある所以である。

## 二

戦後の財政を察知せんとせば先づ戦時に於ける財政上の産物を考へねばならぬ、戦時に於ける財政上の産物で、最も異彩を放てるものは公債の累積である、公債の累積は戦費の巨額であつた結果に外ならぬ。

今回の世界戦の戦費は世界の歴史ありて未だ曾て其例を見ざる所で、其額の大なる、驚くべきものがある。開戦當時より四週年前後の戦時豫算を計算すると左の如き數字を示して居る。

英	六、八四二、〇〇、〇〇〇〇〇磅	一九一八年六月迄
米	{ 一三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗 二四、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗	一九一八年六月迄 一九一八年—一九一九年豫算
佛	九五、七八三、三三〇、一九七法	一九一八年三月迄
伊	二二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇利	一九一八年一月
露	五〇、五九九、二七五、六九九留	一九一八年
獨	一二四、三四二、三四二、〇〇〇馬	一九一八年七月迄
奧匈	七〇、四四二、〇〇〇、〇〇〇冠	一九一八年六月迄

此表で見ると戦費は英國に於て約七百億圓、獨國に於て六百億圓、露國に於て五百億圓、佛國に於て四百億圓に達して居る、今や休戦條約は成れるも媾和會議の終了して各國が撤兵するには尙餘程の時日を要する、假に一九一九年六月迄に片附くとして見てもそれ迄は戦費を支出せねばならぬ、最近月々の戦費が英國に在りて約二億磅、米國に在りて二十億弗、佛國に在りて三十五億法、伊國に在りて十三億利、獨國に在りて三十八億馬となつて居るが、休戦後は彈丸彈藥其他交戦の爲にする経費は省かれるであらうけれども、兩軍相對陣する以上は戦費に非常の減額を見ることが

もなからう、それで一九一九年六月頃迄の戦費を計算すると、英國は無慮九百億圓、獨國は八百億圓、佛國は六百億圓、伊國は百五十億圓にも達するであらう、從て此世界戦の爲に費したる直接戦費は總計四千億圓を超ゆるに相違あるまい。

世界戦の爲めに費したる戦費は此の如く驚くべき巨額に達して居るが、其之を支辨する方法を見るに多少戦時税に依りたるものもあるけれど、多くは公債に依つたものである。故に戦時中に於ける交戦國の公債は驚くべき勢を以て激増して來た。今戦前の公債額と一九一八年の初頃迄の公債額を比較するに左の如くである。

	戰 前	
	七〇八、〇〇〇、〇〇〇磅	一九一八年初
英	七〇八、〇〇〇、〇〇〇磅	四、〇六四、〇〇〇、〇〇〇磅
米	二、九一二、四九九、二六九弗	一六、六三二、三〇一、八六八弗
佛	三二、八八一、四九五、八三七法	一一五、一六六、〇五八、二六九法
伊	一三、四二九、三六一、五九七利	三四、五九〇、一六三、八一四利
獨	五、一七七、二五、三〇〇麻	九八、八四一、四九三、七九一麻
露	八、八四五、七一七、七六八留	三六、八〇八、二一八、〇〇〇留
		(一九一七年七月末)

此表で見ると開戦後三ヶ年半間に英佛等は三百三四十億圓、獨國は四百五六十億圓、露國は三百餘億圓の公債を増して居る。

一九一九年六月迄の戦費を支辨せんとせば、公債は更に増加せざるを得ない、今其公債の如何に増加するかを想像するに、英國は更に三百億圓を増し(一九一八年度の豫算に依れば一年間に二、一三〇、一四七、〇〇〇磅起債の計算なり)公債總額七百億圓となるべく、米國は三百五十億圓を増し(一九一八年七月より一九一九年六月迄の豫算に依れば百六十億弗起債の計算なり)公債總額は七百億圓に近かるべく(其内百五十億圓

戦時公債は平時公債の利子よりも高い、四・五乃至五・五と見ても戦後年々の利拂額は三十億圓内外となる。戦後の財政は此公債の利拂丈より計算しても三十億圓内外の膨脹を爲さねはならぬ。

今戦前の豫算を調べて見るに、總經費は英國にありて約二十億圓、米國にありて約十五億圓、佛國にありて二十億圓、獨國にありて十七億餘萬圓、露國にありて三十五億餘萬圓、伊國にありて十億餘萬圓であつた。然るに英米佛獨等に於て戦後公債の利拂が三十億圓内外ありとすれば、財政は此點のみよりして二倍若くは三倍の規模に膨脹せねばならぬ。

## 115

戦時公債の膨脹から見て此の如く戦後財政の膨脹を豫想することが出来るが、更に戦後經營として經濟上軍事上政治上諸種の問題を解決せねばならぬ爲めに少からざる經費を要することゝなり茲に又財政の膨脹を來すであらう。

●●●  
經濟上からいへば、戰鬪の巷となりたる地域に於ける經濟的損害を恢復せねはならぬ。鐵道を修繕し港灣を修築し工場を回復する爲めに、國家も相當の金額を投せねはならぬことは論なき所である、加之歐洲大陸にては不換紙幣が濫發せられて、經濟界をして熱病に罹らしめて居るのであるから、戰後の經濟政策としては必ずや之を整理し兌換恢復を圖らねはならぬ。それが爲めに

は公債を發行して或は不換紙幣を切り棄てる様なこともせなければならぬ、或は中央銀行よりの借上を返還せねばならぬ、何れにするも不換紙幣の整理を爲すには國家の經費を増さねば已まぬものと覺悟せねばならぬ。

軍事上からいへば、各國は皆陸海軍の恢復を考へるであらう、然るに平和會議に於ては軍備制限案が提出せらるゝ様である、若し此案が確定議にならば、世界永遠の平和の爲に祝福せねばならぬのみならず、財政上からしても常に壓迫を被つて居つた一方の暗雲を拭ひ去ることが出来る譯で、亦大に歡はねばならぬ、併し乍ら軍備は何れの邊に於て之を制限するかと云ふことになれば、實際に於て難問題が頻出すべく、平和會議に於ける成效を危まざるを得ない、若しそが失敗に終らは戦後諸國は又争て軍備擴張をなすに至るやも知れぬ、假令軍備制限は出來ても苟くも軍備を存する以上は、各國は戰時に破壊したるものを復興し、戰時に經驗したることに鑑みて、軍備の缺陷を補ひ、進て新武器を調製するに努力するかも知れぬ、さうなれば國防費は又戦後財政を壓迫する大勢力となつて現れて來やう。

政治上からいへば、戦後に於て民衆主義(democracy)は愈々勢力を得るに至るであらう、露國の帝室も獨逸の帝室も奧國の帝室も其他獨逸諸聯邦の皇室も皆滅ひて、其跡に共和政が布かれて居る、是れは形式に於ける民衆主義の勝利かも知れぬ、さはいへ戦争の結果は他國の皇室をも危ふするものと思ふてはならぬ、英、伊、白、蘭等の皇室は依然として其尊嚴を保たるゝに相違ない併し乍ら民衆主義は其國體の如何に拘らず、政治の主義として偉大なる力を有して來ることは又

想像に難くない、中歐并に東歐に於て政治上最も注意せねばならぬことは國體の變革よりも政治の中樞に居るもの、何人であるかと云ふことである、今日の狀勢よりすれば中歐并に東歐に於て政治の樞軸を握るものは社會黨若くは極左黨の人であるらしい、然るに社會黨若くは極左黨の人は民衆主義に最も憧憬して居るものである、然らば則ち戦後に於ては此等の國は形式的に民主國となるのみならず政治の精神に於ても民衆主義に依て支配するものと見ねばなるまい。又君主を存する國に於ても民衆主義が政治の精神となつて來るに相違あるまい。

民衆主義が政治主義として確認せらるれば、それは單に政治上に止らず、經濟上財政上社會上種々の方面に現はれて來やう、併し乍ら諸方面の發露は多數人民殊に下級社會の人民の福利を重ずるに於て一致すべく、茲に社會本位の國家を現出するに至るであらう、從て勞働者の地位を進め貧者の生活を保障する制度は愈々完美し之か爲めに巨額の經費を支出して惜まない様にならう。更に換言すれば民衆政治の主義が行政に現はれ財政に影響して社會政策的經費を彌か上にも膨脹せしめて已まぬであらう。

此の如く戦後に於ては經濟上の恢復の爲にする經費、軍備の恢復の爲にする經費、并に社會政策の爲にする經費が非常に増加して來ると見ねばならぬ、公債の利拂で戦後財政が二倍三倍となるに是等經費の増加をも加へば戦後財政は戦前の財政に四倍し五倍しても尙足らないことゝならねばならぬ。

戰後財政が戰前財政に四倍し五倍しても尙足りない様になりては、戰後財政は破産の外ない様にも見ゆる、そこで人或は戰後に至て各國は公債の破棄を爲すに相違ないと論するものがある、亦一意見たるを失はないが、余輩は或は其然らざらんことを信せんとするものである。

公債の破棄は内債と外債とに分て之を考察せねばならぬ。

外債は外國々家を債權者となすこともあるが、多くは外國の臣民を債權者とするものである。

外國々家を債權者とする外債は今回の戰爭に於て戰費支辨の爲にする貸付となつて現はれた、味方の國の情誼上の貸借である、戰後如何に財政困難に遭遇すればとて如何なる國も斯の如き外債を破棄するか如きは思ひもそめぬことである。外國臣民を債權者とする外債に於ても之を破棄すれば其債權者を有する國家は間接に打撃を被らざるを得ない、從て其國は外債破棄の國に向て抗議を申込むであらう、そこで外債破棄をなす与否とは事實上の力のありやなしやに歸する、事實上力の弱き國家が外債破棄を宣言したとて之を貫くこと出来ない、事實上力強き國とても平和的國際關係を保たうとする以上は此の如き亂暴の宣言は出来ない、只干戈の間に相見えて居る間のみさう云ふ事が出來ると云つてよい。現に露國は一九一八年二月八日に於て外國より借入れたる國債は無條件に且つ例外なく之を破棄すと宣言したが、英佛は之に對して直に露西亞帝國政府の締結したる契約は依然現存するものにして其債務は現在或は將來露國を代表する新國家を拘束するものなりとの共同宣言を發した、又獨逸が露國と單獨媾和を爲す時に當りても露國は獨逸の露國公債所持人に對して利札支拂の保障を與へたとか云ふことである、故に露國と雖とも媾和會議に



臨めは外債破棄の宣言を取消すより外あるまい。

内債に就て之を考ふれば、國家は主權を有するもので、主權は無制限で如何なることをも臣民に命することが出来、内債の破棄をも爲し得ると云ふ論も立つ様に思はれる、併し乍ら國家が法律に依て國を治むる以上は、法律に依て負ひたる債務は之を尊重せねはならぬ、之を尊重せずして勝手に破棄をなすは法治國の觀念を脱却し事實上の權力を振ふものと評せねはならぬ。然るに事實上の權力は革命の際に之を振ふことを得べく、平和の際に之を振ふこと出来まい、歐洲諸國が戰後財政難に遇て忽ち事實上の權力を振て内債を破棄すとせば、是れ革命を促すものに外ならぬ、蓋し公債は債權者より見れば一の財産である、之を破棄するは財産を沒收するものと謂はねばならぬ其利子に依て衣食するものは忽ちに凍え餓えざるを得ない、人を凍え餓えしめては天下の人心を得ること出来ない、人心を得ずして天下を治むること出来ない、殷鑑遠からず露國に在り、露國の新政府が公債を破棄し財産權を尊重せざるより人心之に歸せないではないか、之に反して獨逸の社會黨は支配權を握りて直に財産の保障を天下に宣した蓋し人の財産を保障するは政治の要訣である、故に政治論の立場よりして内債の破棄は爲し得ないものと謂はねはならぬ。

尙戰時公債は破棄し得られぬ事情がある、何れの國に於ても戰時公債を募集するに當りて公債の民衆化に努め、公債をして普く民衆の所有する所となしめんとして、貧民階級の應募を勧誘したものである、それで今日に於ても諸國公債の所有者は貧民階級の間にも頗る多いと見ねはならぬ、然るに今一朝に公債を破棄するとせば、富者の財産を沒收するに止らず、貧者の生活の基

礎をも脅かすことになる、是れ戦後に最も勢力を得べき民衆政治主義に背反し社會本位の國家思想と相容れないものである、是か故に内債の破棄は戦後政治家の爲し得ないものと謂はねはならぬ。

露國の新政府が國債破棄を宣言するに際しても貧民の利害を考慮せずには居られなかつたと見え、一萬留を超過せざる内國債を所有する貧民に限り特に額面價格を以て之を露西亞共和國の新公債と交換することを得るものとした、即ち貧民の所有にかゝれる公債だけは破棄することを敢てせなかつたのである。或は他の國に於ても此式に則り富者階級の所有する公債のみを破棄するに至るべしと論するものがあるかも知れぬ、併し乍ら資産階級を絶滅すると云ふ主義を立てざる限り、財産權を尊重すると云ふ旗幟を立つる限り之も出来ない相談である、加之諸國は戦後經營を爲すに於て幾多の公債を起さねはならぬものがある公債を破棄して置いて公債を起さんとするは矛盾の政策で到底其成效を見ることあるまい、是が故に各國の政治家は莫大なる公債を破棄せないで其利拂を爲すことに工面するであらう。

## 五

公債は破棄することが出来ないで、之に對して巨額の利拂を爲さねはならぬ上に戦後經營の爲に種々の経費が増して來て戦前の幾倍にも達することゝなれば、如何に之を支辨せんかとの問題が起て來る。

經費支辨の方法として先づ問題となるのは、租税である、戦後經費が幾倍すると云ふも、皆多

く經常費に屬するか故に經常收入で之を支辨せねはならぬ、從て租税を中心として之を支辨せねはならぬ、然るに租税は無暗矢鱈に徴收すること出來ぬ、其擔税力のあるものに就て之を徴せねはならぬ、戰前よりも數倍の租税收入を要すると漫に税率を數倍して其目的を達するものでない、消費税の税率を倍加して已まされは、却て消費を減し消費の方向を轉して其租税收入は減するかも知れられぬ。故に租税收入を増さんとせは資産階級の擔税力あるものに向て之を重課するの方針を採らねはならぬ。是が故に戰後に於ては財政の必要上からも資産階級重課の租税政策が一代の風潮を爲すに至らう。又之を戰後に於ける政治主義より觀るも、民衆政治主義が勢を得て社會本位の國家が現はれ來るとすれば論理の結果資産階級に向て大なる租税負擔を要求することにならねばなるまい。

之を戰時財政に就て見るも其傾向は既に戰後を俟たずして現はれて居るものがある。各國が所得税を増徴し、戰時利得税を起し思ひ切つて重い税率を課して居るか如きは其例證である。戰後は多少税率に緩和を見るかも知れぬが、大體富者階級に重く税するの方針を採る限りそが戰前に復することは期待すること出來まい、戰時利得税は戰爭終了と共に自然消滅を爲すが如くにも見ゆるが、或は戰後形を變して一定率の利益に超過するものを税すると云ふ形式を採る様になるかも知れぬ、戰時利得税が變して超過利得税となるのである、現に其傾向は米國の立法に表はれて居る。

此の如く戰後に於ける歐米諸國の財政の大勢は資産階級重課の方向に向て進みつゝある、之を

戰後財政の一歸趣と見ることが出来る。然るにも拘らず我國に於ては、資産階級の負擔すべき租税の輕減運動が始まらんとして居る、正しく戰後に於ける世界財政の歸趣に逆行するものではないか。

## 六

戰後財政の一特徴は資産階級重課の傾向に表はれて來ること前述する如くであるが、それは所謂直接税に屬するものである、然らば消費税はどうなるかと云ふに、社會黨は動もすれば之を排斥せんとするものであるけれども、全く之を失ふては實際に於て財政を變理すること出来ないから、假令社會黨が天下を支配しても或は之を全廢することを敢てすまい、併し乍ら、消費税を増すことは貧者階級の負擔を増すこととなり時代思想に背反するから成る可く之を避くるであらうそこで、貧民階級の負擔を増さずして國庫の收入を多くする方法を採らねばならぬ。貧民階級の負擔を増さずして國庫の收入を多くする方法は、專賣課税法に依るより外あるまい。是に於て余輩は戰後に於て專賣制度の擴張が一の特徴となつて表れて來るであらうと信ずる。

專賣は課税の一方法とも見られるけれども、資本と勞働とを結び付けて一の企業を形くるものであるから、又之を一の官業とも見ることが出来る。従て專賣の擴張は官業の擴張とも見ることが得べきである。

專賣は課税の一變形であるが、課税に關係なき官業も亦戰後に於て榮へて來るかとも思ふ、蓋し戰後に於て經費が戰前に幾倍も増して來之を支辨するが爲めに直接税を増し專賣を擴張するに

至らうけれども、未て以て十分となすこと出来まい其収入不足は何かに依て之を補填せねはならぬ、そこで諸國の財政家は唯一の逃路を官業經營に見出すであらう、官業は國家が私人と同じ様に經濟事業に従ふもので、經濟自由主義よりいへは全く之を排斥せねはならぬが、戦後の國家はそんな事に頓着なく、私人の經濟事業にぞし／＼這入つて之より相當の収入を汲み取ることに躊躇すまい、此くして官業は事實として消費税賦課の方面よりも又私經濟的收入増加の方面よりも大に擴張して行くものと斷せねはならぬ。

官業の擴張は一見社會主義的國家に近くなる様であるが、戦後の國家は資本主義を打破するものでなからうから社會主義の實現とは云へない、併し乍ら資本主義の活躍して營利を恣にする所に國家も突入して之と同様な振舞をなして敢て辭せないものであるから、戦後の國家は餘程異つた色彩を有するものと謂はねはなるまい。而して此の如きは社會本位の國家と相調和するものである。

x x x x x x x x

此の如く論し來れば我輩は財政上から見ても戦後には資本主義と社會主義との中間國家が現出するものと斷することが出来る、更に換言すれば國家社會主義が最も理想的に實現せらるるものとも云ふことが出来やう。